



<http://www.hcr.or.jp>

Int. Home Care & Rehabilitation

## CONTENTS

### 福祉機器利用者アンケート ————— 1

1. 福祉機器情報の入手方法
2. 相談窓口
3. 利用にあたって望まれること
4. 開発や利用についての意見・要望
5. 機器に対する不満

### H. C. R. スキルアップ講座報告 ————— 4

老人ホーム、障害者施設と緊急救命  
— 緊急対応事例の発表をもとに

### はじめての福祉機器Q&A

### 第7回 段差解消機、階段昇降機 ————— 8

編集・発行：財団法人 保健福祉広報協会

Publisher: Health and Welfare Information Association

住所：〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

定価 1部 200円 (消費税・送料込)

# 福祉機器 利用者 アンケート

昨今、介護ベッドや電動車いすをはじめ福祉機器に関する事故が数多く報告されています。社会も福祉機器の安全性に対する関心は高く、使用方法の注意喚起や安全性確保のために度々 JIS 規格の改正がおこなわれています。

本会では第36回国際福祉機器展H.C.R. 2009の会期中に、「福祉機器利用者アンケート」を実施し、796件の回答を得ることができました。回答者は女性が67%、男性が32%、無回答が1%です。年齢は20歳代以下が15%、30歳代が21%、40歳代が25%、50歳代が21%、60歳代が12%、70歳代以上が6%でした。

回答によると、利用者は「操作がわかりやすく」「安全で」「適切な価格」の製品を探していました。この傾向はここ数年ほとんど変わっていません。福祉機器の選び方・使い方などの適切な情報の発信と、利用者のニーズを満たす福祉機器の一層の開発・促進が必要です。

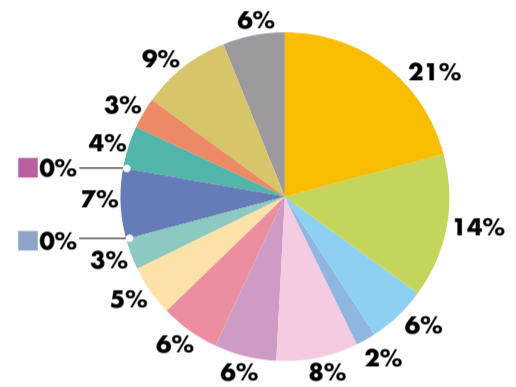
関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 1 福祉機器情報の 入手方法

(※複数回答可)

福祉機器情報の入手先は、「福祉機器常設展示場」が21%と最も多く、次いで、「介護ショップ」の14%です。この2つは、実際に福祉機器を見たり触れることにより得られる安心感があるためではないでしょうか。続いて、「販売企業の営業担当者」が9%、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が8%、利用者同士の情報交換と社会福祉協議会と医師・病院が各々6%でした。企業やメディアのサイトなどインターネット全体では15%、一般紙と業界紙は合わせて7%でした。情報の入手方法は活字や電子情報などの提供側の一方的な情報よりも、実際に現物を見たり相談できる場所が支持されています。



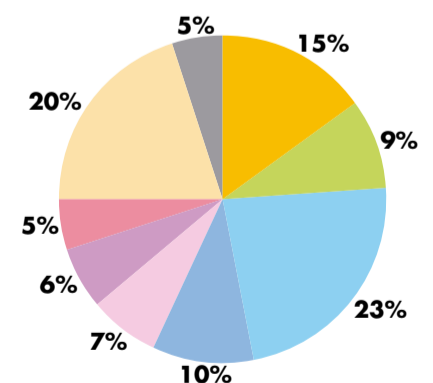
- 福祉機器常設展示場
- 介護ショップ
- 社会福祉協議会
- 市町村役場
- 地域包括支援センター / 在宅介護支援センター
- 利用者同士の情報交換
- 医師・病院
- HCR福祉機器情報サービスホームページ
- テクノエイド協会ホームページ
- 日経 Medwave ホームページ
- 各企業のホームページ
- 個人のインターネットページ
- 新聞一般紙
- 業界紙
- 販売業者営業担当者
- その他



## 2 相談窓口

(※複数回答可)

福祉機器に関する相談先は、「地域包括支援センター、在宅介護支援センター」が23%と最も多くなりました。一方、昨年まで一番多かった「販売企業の営業所窓口、営業員」は20%となり、今年はいじめて1位と2位が逆転しました。2005年の地域包括支援センターの制定から約5年が経ち、役割が浸透されてきたようです。続いて「市町村役場」が15%、「老人・障害者福祉施設」が11%、「利用者同士の情報交換」が10%、「福祉機器常設展示場」が9%となっています。



- 市町村役場
- 福祉機器常設展示場
- 地域包括支援センター / 在宅介護支援センター
- 利用者同士の情報交換
- ホームヘルプ事業者
- 老人福祉施設
- 障害者福祉施設
- 販売企業の営業所窓口 / 営業員
- その他

## 3 利用にあたって望まれること

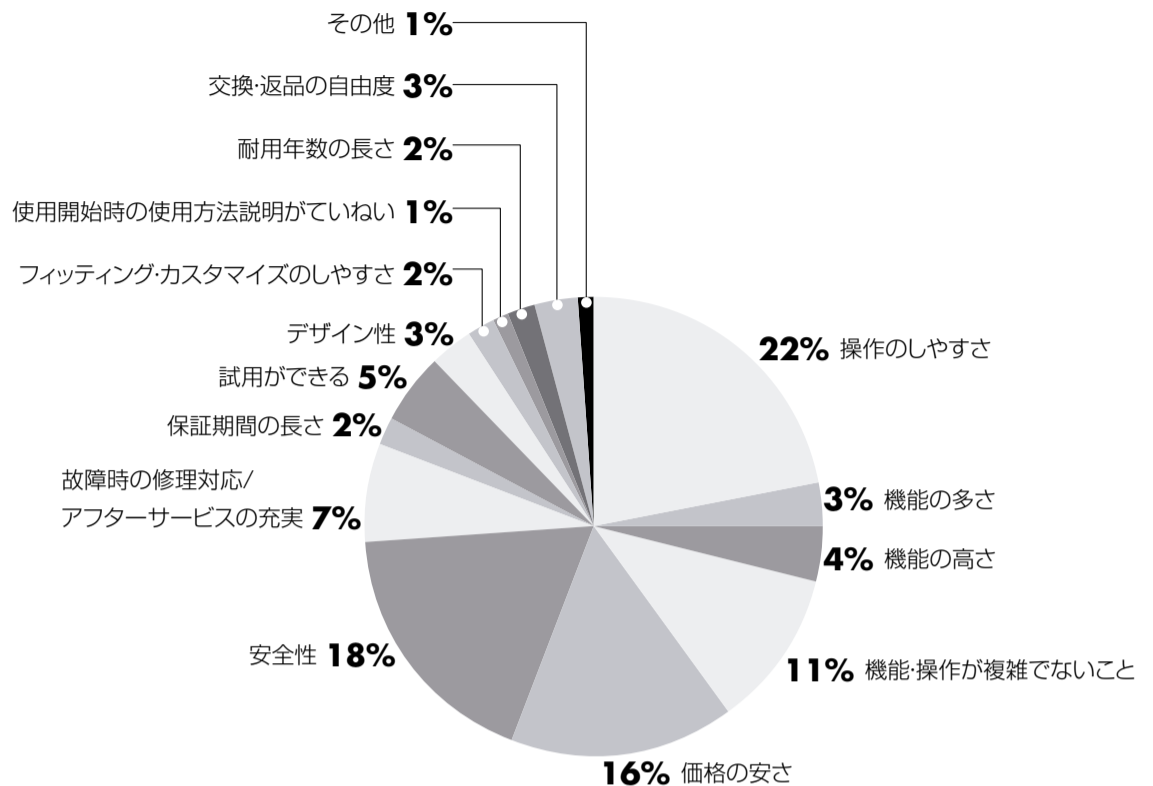
(※3つまで選択可)

福祉機器の利用については、さまざまな要望があります。最も多かったのが「操作のしやすさ」で22%でした。高齢者は多機能よりも操作性が単純で分かりやすいことを支持しています。また、機器を正確に使いこなすことは、事故防止にも効果的だと考えられます。

続いて「安全性」が18%でした。介護用ベッドや電動車いすをはじめ福祉機器の事故は時に重大な結果を招きます。そのため安全で安心して使用できる製品を望む声は徐々に増えてきています。

「価格の安さ」が16%で3番目でした。一般の製品と比べ福祉機器は高価です。多くの安全性への配慮がなされていること、少ない利用者のためにも製品化されていることなどが理由ですが、もっと身近に福祉機器を使用できるようにするためには、金額は重要な要素です。

この利用にあたって望まれることの1番～3番の順番はここ数年変わっていません。



## 4 開発や利用についての意見・要望

「すぐれたデザインの製品」「安くて安全な製品」「軽くて扱いやすい製品」と言った意見が多く寄せられたなか、「試験利用がしたい」とか「修理している間、代わりにの機器を貸して欲しい」など具体的なサービスの改善を求める要望がありました。



### 開発や利用についてのご意見・要望

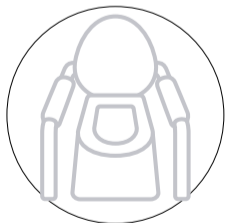
- 簡単に家族にも使えて、介護が必要な人が安全に信頼して使える機器が必要。
- 美しく快適なもの、眼が悪いからメガネ、でなくオシャレでメガネをかけるような商品が必要。我々これからの高齢者は、良いモノをたくさん知っている世代。
- ケアマネの立場として、ベッドの機能や性能はいいのだが、操作ボタンが多く、使う方がよくわからないという。高齢者は、視力も低下しているので、字をみやすいことと色での選別があったらいい。杖も軽量化しているが、利用者によって使い方が違うので、いろいろな重量の豊富な種類があれば選択の幅が広がる。レンタルについてもいろいろと選べる品物があると、自立した生活がひろがる。
- 日常生活(スーパーでの買い物など)に利用しやすいように、背の低い方用(140cm位)の歩行器などを捜している。
- ①ペットボトル・ジャム等のピンを自分でかんたんに取りはずしのできる用具(今もっているものはかんたんに取りつけられない)、②マットレスが軽く、通気性の良い物、③いろいろな消臭対策品がほしい。
- 殆どの浴槽にあう浴槽リフトができればと思う。
- 立ち上がれないので、立っていただける器具の開発を希望する。
- ユニバーサルデザインの重視。音声を使った製品など視覚障害に優しい製品を増やしてほしい。
- 手足の補助具が、自分の意思だけで作動できるものがあればうれしい。
- 狭い場所でも使い易い車いす、軽くてコンパクトな歩行器など個々の環境や状態に対応できる製品を開発してほしい。
- 紙おむつは毎日使うものなので値段を安くしてほしい。
- それぞれ同じ様な障害でも微妙な使い勝手の違いがあるので、細かい所迄調整ができ、また、オーダーメイドが簡単で安くできるとよい。
- もっと気軽に買ったりリースができるような環境と値段を望む。どこで売っているのかもわかりにくい。
- 試験利用が数日間できたり、すぐ近くに試乗できる場所があるといいと思う。
- 試供品がほしい。職場で試供品が無いと検討することがむずかしい。
- 修理している間、代わりに機器が借りられると便利。



# 5

## 機器に対する不満

「機器に対する不満」に対してもフリーアンサー形式で回答を得ました。どの製品にも共通しているのは、「価格が高い」「製品が重い、大きすぎる」「デザイン性が乏しい」「種類が少ない、もしくは自分に合ったものがない」などです。個々の製品に対する主な不満は次のとおりです。



製品分野	不満点
手動車いす	介助者の押し手が低いので、介助者が前かがみになってしまう。介助者がブレーキを使いにくい。
	空気が抜けやすい。空気を入れるのも高齢者は難しい。
	各部分をはずせるのは便利だが、はずれやすくなってあぶない。ガタガタする。
	失禁対策ができない→座位保持に必要でウレタンを使っているが、失禁後の洗浄が大変。
	転倒防止バーが座ったままで出し入れできない。
電動車いす／電動スクーター	道路交通法で電動車いすの時速制限はあるが、例えば信号の変わる時など一時的にでもスピードアップできないものか。電動車いすはシートのクッションが悪い。
	おしりを痛がるのが時々ある。種類が少ない。
歩行器／歩行補助車	杖をつける所があるがマジックテープで固定するのが面倒。
	歩行器の折りたたむときのプラスチック部分(押すところ)の耐久性が低い。すぐわれてしまう。
	ゴムがはがれやすい。
杖	すべりやすい。持ち手の部分の角度がフィットしない。
	購入後に修理する場所がわからない。
床走行リフト	小回りがきかず、操作が大変。使用できるスペースが限られてしまう。
据置式・固定式リフト	つり上げると痛がる。
福祉車両	サーキット使用のマシンが必要。自分で改造しないと行かない。
ベッド	介助バーの位置が決められた位置でしか設定できず、立ち上がりの際に不満がある。
	手摺が不安定。
	操作ボタンがわかりにくい。特に夜間操作時に見にくい。
マットレス	圧力のかかり方の調整がむずかしい。
シャワーチェア	足元が広がっていて、つまずきやすい。
	毎日干してもカビがはえる。においが気になる。
	移動タイヤを大きくしてほしい。
	おフロ場がせまいので、イスが大きすぎる。
滑り止め用品	浴槽で使用しているのに滑ってしまう。
	タイルにつけにくい。浴そうに湯を入れるとはがれてしまうことがある。耐用性が不満。
入浴用リフト	利用できる浴そうに限りがあるため使えない人もたくさんいる。
	背中が曲がっていると転がりやすい。
ポータブルトイレ	個人の体型に合わせて、高さ・奥行き・設置方向などを変更できない。
	簡単に、短時間で清潔にすることができない。消臭剤の値段が高い。
	便座部の強度が弱い。
おむつ	軟便対応が難しい。
	最近通気性が良い物が主流になっているが、通気だけでなく、湿り気&臭気が漏れるのと、材質が弱くなって切れやすくなっている。以前の方が良かった。
	容量がもう少し欲しい。ビッグサイズで子どもに使用しているが、一回量を保持できず、もれてしまう場合がある。
靴	靴の中敷の交換商品の販売がない。
補聴器	複雑で解りにくい。その人それぞれの状態に対応させるため、一括して扱えず、レンタル等では難しい面がある。
	箱型が年々少なくなり大いに不安。
	雑音が良く聞こえず。感度と雑音の調整が難しい。
その他コミュニケーション機器	操作ボタンがどこにあるのかわかりにくい。
スロープ	もっと長いものがほしい(3m以上)。
手すり	グリップがすべりやすい。
	アンカーが短くて施工しづらい。
施設用洗濯機・乾燥機	あいまいな設定ができない。コストが高い。
歩行等訓練機器	ストッパーがないため、立ち上がり時動いてしまう。
義肢・装具	ベルト部分がすぐに弱くなってしまふ。
	重くて常時装着してられない。
筋肉トレーニング機器／身体機能訓練機器	子どもに立位補助装置を使用しているが、立たせた際、保持するための留めの方法を簡単にしたい。現在ひざ裏、腰、胸でマジックテープで抑える形だが、立たせる際、子どもが動くと止めるのに苦労する。簡略化して即止められるとよい。
口腔ケア用品	乾燥した痰をやわらかくするジェルがあるが価格が高く家族にすすみにくい。

### まとめ



福祉機器は常に新しい製品が開発・販売されています。購入にあたっては、常設展示場や地域包括支援センターなど専門機関と相談し、ご自身にあった製品を選んでください。また、長期間使用していると身体状況が変化し調整が必要になってきます。購入にあたっては将来にわたってその製

品が使用できるかを考えて製品の購入を決めることをおすすめします。そのため、購入時には、製品のメンテナンスと調整についても確認してください。身体に合わない製品は、自立を阻害する要因とも成り得ますので、慎重に選択する必要があります。